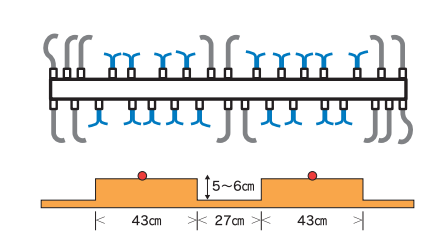


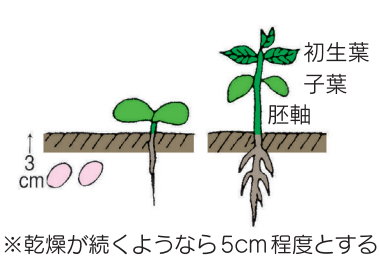
部分浅耕一工程播種を導入し、適期播種に努め、目標収量240kg/10aを目指しましょう！

時 期	月 旬	6			7			8			9			10			11																				
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																		
主な作業		適地の選定			土づくり			除草剤散布 耕起・播種(施肥) (耕起・整地)			乾燥対策 除草剤散布			中耕・培土			害虫防除 ハスモンヨトウ対策 中耕・培土			病害虫防除			カメムシ類防除			収穫準備			成熟期			刈取					
作業内容		同一ほ場に、ちくしB5号以外黒豆等の品種を作付しない 排水良好でかん水の恐れがないほ場			pHの矯正 適正pH6.0〜6.5、土づくり参照 完全堆肥の施用 土壌診断を行う。			ラウンドアップマックスロード、またはザクサ液剤を使用する。 種子消毒 種子消毒基準参照			麦ワラは全量すき込む。 播種時期と栽植密度参照 施肥基準参照			出芽後は暗きよ栓を閉める 除草剤基準参照			1回目 本葉2枚から4枚までに行う。 2回目 本葉5枚から6枚までに行う。			病害虫防除基準参照 白変葉が目立つてきたらハスモンヨトウの一斉防除を行う。 ハスモンヨトウのふ化幼虫が群集している白変葉を見つけたら除去する。(葉の裏まで確認する) 2回目 本葉5枚から6枚までに行う。			※ハスモンヨトウの発生は、隣接ほ場に被害を与える。 紫斑病 カメムシ類 ハスモンヨトウの薬剤防除 病害虫防除基準参照			病害虫防除基準参照 カメムシ類の吸汁加害は青立ちの要因となります!!			刈取適期は成熟期7日後から(子実水分16%以下) 成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に乾燥した時期 青立ち株や雑草は刈取前に抜取る			※刈取の際は土のかき込み、雑草の汁による汚損粒に注意しましょう。					
								 アサガオ類初期			 ケイトウ類初期			 ヒロハフウリンホオズキ初期			 マメハンミョウ			 ハスモンヨトウ幼虫			 オオタバコガ幼虫			 紫斑病			 ミナミアオカメムシ幼虫			 ミナミアオカメムシ成虫					

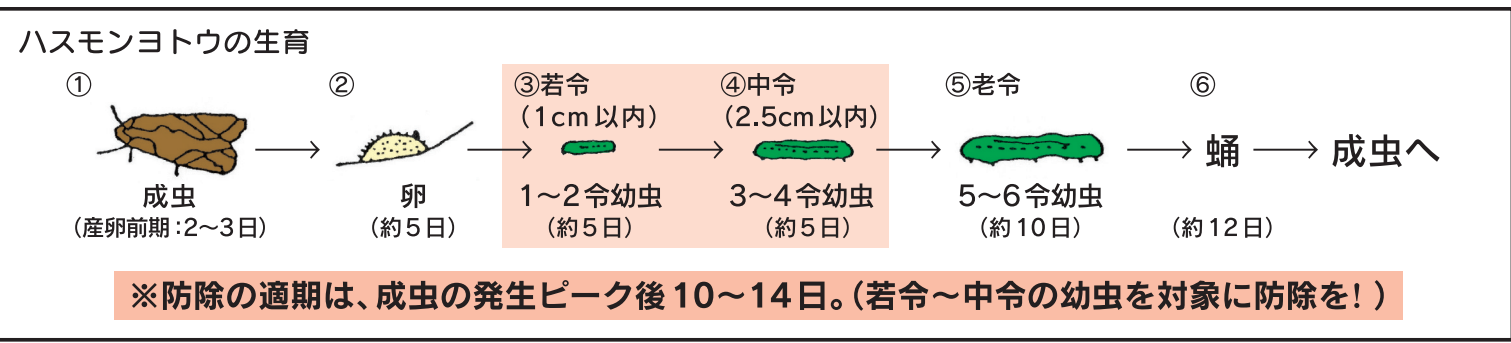
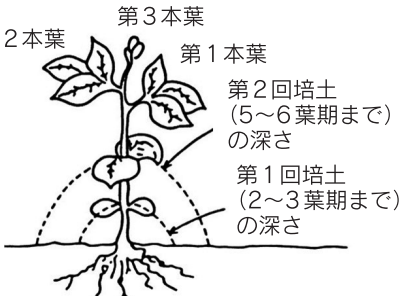
部分浅耕一工程播種



播種・出芽期



中耕・培土



◆品種特性表 (7月10日播種)

品 種 名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	やや強	366kg	32.4g

※引用元: 福岡県農林業総合試験場データ

◆土づくり (kg/10a)

資材	施用量	散布時期	備考
生 石 灰	100	少なくとも播種7~10日前までに散布	水と反応し発熱するため注意
炭 酸 苦 土 石 灰	200	播種直前まで散布可	カルシウム、マグネシウムを含む
オイスターミネラル	100~200		カルシウム、微量要素を含む
ミ ネ ラ ル G	160		カルシウム、マグネシウムを含む

※土壌の酸度(pH)矯正は、大豆の養分吸収や根粒の活性を高めるために行う。

◆種子消毒基準

薬 剤 名	処理方法	処理量	備 考
クルーザーMAXX	塗沫	種子10kgに80ml	ハト害、紫斑病 ネキリムシ、莢疫病
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫	種子10kgに200ml	ハト害、紫斑病

◆播種時期と栽植密度

品 種 名	ちくしB5号 (1株当り2粒)	
播 種 期	7月5~20日 (適期播き)	7月下旬 (遅播き)
条 間 (cm)	65cm	
株 間 (cm)	30~20	15~10
10a当り播種量(kg)	3.0~4.0	6.0~8.0

※播種深度は3cm程度が適当であるが、土壌が乾燥している場合はやや深め(5cm程度)にする。
※近年、梅雨明け後の播種は、遅播きになるほど乾燥害による出芽不良が助長される傾向にあるため、適期播種を心がける。

◆施肥基準 (kg/10a)

大豆作付条件	肥料名	基肥	成 分 量			遅播は ちくごのめぐみ444 を施用する
			窒 素	りん酸	カ リ	
一 般	PK化成40号	30	—	6.0	6.0	
遅 播	ちくごのめぐみ444	20	2.8	2.8	2.8	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意する。

安全と信頼は生産者のチェックから!!STOP異物混入

被害粒	紫斑病・褐斑粒	皮切れ・剥皮粒	汚損粒 (泥汚れ等)
発生原因	・前年産の罹病莢葉 ・罹病種子の使用 ・適期防除の不徹底	・収穫時期の遅れ (過乾燥)	・降雨直後および朝露後に収穫 ・雑草、青立ち株の混入 ・コンバインの刈り取り位置が低い (土のかき込み)
防止策	・種子更新100% ・種子消毒の徹底 ・適期防除	・適正な子実水分での収穫作業 子実水分: 16%以下 収穫開始: 茎水分50%以下 収穫時間: 茎水分の高い朝夕を避ける 午前10時~午後4時まで	・降雨直後や朝露発生時の収穫を避ける ・収穫まへの雑草、青立ち株の抜き取り ・コンバイン収穫時の刈り取り位置に注意

◆除草剤基準 ※中耕・培土による耕種の防除も併せて行う。

使用時期	除 草 剤 名	10a当り使用量	希釈水量	留 意 点
播 種 前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	隣接、周辺の水稲など他作物への飛散を防止する。 ラウンドアップマックスロードは効果を高めるため、出来るだけ100倍希釈する。(少量散布の場合は水量を25~50ℓにする) ツクサ対策にはブリグロックスL(600~1,000ml/100~150ℓ)を散布する。
	ザ ク サ 液 剤	300~500ml	100~150ℓ	
播種直後 出芽前	ラ ク サ ー 粒 剤	4~8kg	—	覆土は2~3cm以上とし、よく整地して鎮圧する。 二重散布にならないように均一に散布する。
	ラ ク サ ー 乳 剤	400~800ml	100ℓ	広葉雑草・イネ科対策 ホオズキ対策: フルミオWDGを5~10g/10a(希釈水量100ℓ)を混用して散布する。散布後は専用洗浄剤で十分に洗浄すること。
	プロールプラス乳剤	400~600ml	100ℓ	
生 育 中	パワーガイザー液剤	200~300ml	100ℓ	出芽直前~3葉期まで (雑草発生始期~2葉期)
	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	アサガオ類対策。大豆2葉期~開花前 但し収穫45日前まで
	アタックショット乳剤	30~50ml	100ℓ	アサガオ類対策。本葉2葉期~開花前、但し収穫45日前まで。大豆に褐変、白化などの薬害が生じることがある。
	ポルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	イネ科雑草対策(3~10葉期) 但し収穫30日前まで スズメノカタビラを除く

◆病害虫防除基準

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	10a当り使用量	使用回数	使用 方法
播種時~本葉2葉期	ネキリムシ	ネキリエースK	3kg	2回以内	土壌表面株元処理

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	散布濃度	10a当り使用量	使用回数	使用 方法
発生時	マメハンミョウ	スミチオン乳剤	1,000倍	100~300ℓ	4回以内	散布

液剤体系	時 期	対象病害虫	薬 剤 名	散布濃度	10a当り使用量	使用回数	使用 時期
	8月中~下旬 (開花前)	ハスモンヨトウ	ノ ー モ ル ト 乳 剤	2,000倍	100~300ℓ	2回以内	収穫14日前まで
	9月中旬 (開花20~30日後)	ハスモンヨトウ	グ レ ー シ ア 乳 剤	2,000~3,000倍	100~300ℓ	2回以内	収穫14日前まで
			(または) ブ ロ フ レ ア S C	2,000~4,000倍	100~300ℓ	3回以内	収穫前日まで
		カ メ ム シ 類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	100~300ℓ	2回以内	収穫7日前まで
		紫 斑 病	トップジンM水和剤	700~1,500倍	100~300ℓ	4回以内	収穫14日前まで
	10月上旬 (開花40日後頃)	カ メ ム シ 類	キラップフロアブル	2,000倍	100~300ℓ	2回以内	収穫7日前まで

時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 名	散 布 濃 度	10a当り使用量	使用回数	使 用 時 期
8月中～下旬 (開花前)	ハスモンヨトウ	ノ ー モ ル ト 乳 剤	8～16倍	0.8ℓ	2回以内	収穫14日前まで
9月中旬 (開花20～30日後)	ハスモンヨトウ	ブ ロ フ レ ア S C	16～32倍	0.8ℓ～1.6ℓ	3回以内	収穫前日まで
	カ メ ム シ 類	スタークル液剤10	8倍	0.8ℓ	2回以内	収穫7日前まで
	紫 斑 病	アミスター20フロアブル	16～24倍	0.8ℓ	2回以内	収穫7日前まで
10月上旬 (開花40日後頃)	カ メ ム シ 類	キラップフロアブル	16倍	0.8ℓ	2回以内	収穫7日前まで

※ヘリ防除体系において9月中旬の薬剤混用時には、使用前に混合する。
※カメムシ類は移動範囲が広いので、防除効果を高めるために広域一斉防除をする。
※薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーションして使用する。(グレーシア乳剤とプロフレアSCは同一系統薬剤)
※農業の登録内容は随時更新されますので使用する際は、包装容器か袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。
※農業の安全使用と隣接する作物への飛散防止対策を徹底しましょう!
※作業日誌、生産工程管理チェックシートは別に配布しますので、必ず記載、提出をお願いいたします。